

[jbpress.ismedia.jp](https://jbpress.ismedia.jp)

## 香港の次はマカオ、中国政府が「アジアのラスベガス」を圧迫 東アジア「深層取材ノート」(第119回) | JBpress (ジェイビープレス)

近藤 大介

### 習近平政権がマカオに与えるアメとムチ

習近平政権は、マカオに対して、こうした「ムチ」ばかりでなく、「アメ」も用意している。それは、2018年から進めている「グレート・ベイエリア構想」(広東省・香港・マカオの一体化政策)の一環として、マカオと広東省珠海をつなぐ地域を埋め立て、「横琴新区」を建設することだ。行政区域上は珠海市の一部だが、珠海市とマカオ特別行政区が共同管理するという建て前になっている。横琴新区のホームページには、こう記されている。

〈2020年10月14日、習近平総書記が「広東省とマカオが深く提携する横琴地域の建設加速」を強調し、中国共産党中央委員会と国務院は、2021年9月5日に、正式に「広東省とマカオが深く提携する横琴地域の総合的方案」を公布した。総面積約106km<sup>2</sup>で、マカオ経済の多元的発展を図っていく。新産業の法人税を15%とし(中国国内は25%)、ハイレベル人材の所得税も15%とする(中国国内は最高45%)・・・〉

ホームページを見る限り、先端産業の集積地としての「第二深圳」、及び金融産業の集積地としての「第二香港」を目指しているようだ。香港がこれ以上、アメリカに攻撃され、衰退していった場合の「避難地」的要素もあるのだろう。マカオでは先月12月2日から4日に、「ビヨンド・エキスポ」と呼ばれるIT産業の博覧会を開いたが、そこでも「横琴新区」を大々的にアピールしていた。

思えば、香港とマカオは兄弟のような関係だ。長男(香港)は常に父親(中国)と対決することで生き残ろうとし、次男(マカオ)は逆に、恭順の意を示すことで生き残りを図って来た。父親から見れば、まさに不肖の長男と孝順な次男だ。

そんなマカオでは、今回のカジノ法改正でも、まったく表立って抵抗の意思を見せていない。それで目立たないわけだが、やはり今年のマカオは、香港と同様に要注目である。